

## アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

### 事業概要

【事業名】	アジアにおける睡眠学ネットワークの形成(第一回アジア睡眠サミット)
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	大川 匡子 特任教授 滋賀医科大学 睡眠学講座
【事業形態】	(1) 国際集会の開催 (2) 研究者の派遣・受入れ
【実施期間】	2009年 10月 30日～ 2009年 11月 1日 (3日・ヶ月間)
【実施場所】	万国津梁館サミットホール(沖縄県名護市)
【参加国・地域】	日本、中国、韓国、インド、香港 他 等13ヶ国・2地域
【事業概要】	<p>提案する事業の概要を簡潔に記述してください。特に提案する事業にこれまで継続的に開催してきた実績がある場合、「機動的国際交流の基本的考え方」を踏まえ、機動的国際交流事業として実施する必要性とその根拠を明確に示してください。</p> <p>我が国は、睡眠研究で世界に冠たる実績を上げ、睡眠医療についてもアジア諸国の中で最も先駆的な地位を占めてきた。歴史的にも、1909年、愛知県立医学専門学校(現・名古屋大学)の石森国臣博士が、断眠中に睡眠物質が脳内に蓄積することを世界で初めて証明した。この発見の100周年にあたる本年10月に、アジア睡眠学会、日本睡眠学会、日本時間生物学会の3学会の合同大会が大阪で開催される。さらに、2011年にアジア睡眠学会がホストとなって、4年おきに開催される世界7地域の睡眠学会の合同総会(WorldSleep2011)が、アジアで初めて、京都で開催されることが決定した。アジア睡眠学会は、アジア13の国と地域の睡眠学会で構成されるが、未だ十分に組織化されていない。そこで、アジアの個別学会のリーダーを一同に集め、日本睡眠学会が中心となってアジア睡眠学会のネットワーク形成を推進し、2011年のWorldSleep 京都大会の準備に万全を期することとした。アジア諸国における睡眠環境は、最近、急激に悪化している。しかし、同地域における睡眠医療への関心は低く、様々な睡眠障害の診断や治療法の普及も進んでいない。我国は、アジアで唯一、睡眠時無呼吸症候群の治療機器の保険適用を導入し、医療費の削減や国民のQOLの向上に成功して来た。これらの経験を基に、我が国が率先してアジア地域の睡眠医療の向上に寄与することで、今後も、同地域での睡眠医療のイニシアティブを堅持することができる。さらに、国内の睡眠研究所と協力関係にあり、非常に高い研究水準にあるスウェーデン・カロリンスカ研究所や、米国ハーバード大学、フランス・リヨン大学、スイス・ジュネーブ大学等の研究者を招聘して、これらの研究拠点とのネットワークを構築し、アジア地域の睡眠医療と睡眠研究におけるネットワーク・オブ・エクセレンスの形成を進める。これらの活動を通じて、我が国への留学・滞在経験を有する研究者や人材の積極的参画が期待できる。</p>